



2016・12・21
第 259 号
101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303
TEL 03-3221-5075
FAX 03-3221-5076

安倍支持減らそう—九条の会の役割発揮を

全国交流集会の総括会議開く

九条の会事務局は 12 月 16 日、9 月の第 6 回全国交流討論集会の総括会議を開き、あわせて全国集会後の憲法をめぐる情勢や運動についても意見交換を行いました。

会議では小森陽一事務局長が全国集会の総括にあたっての基本的要点を報告し、つづいて小澤隆一、高田健の両事務局員が自衛隊の南スーダン派兵をめぐる憲法問題、衆院選における野党共闘実現をめざす基本的考え方について問題提起しました。

討論では、個々の政策で国民の多くが安倍政治に反対していながら世論調査では安倍支持が高い水準をつづけていることや、この安倍政治を終わらせるためには衆院選における野党共闘が不可欠であることが多く語られ、そのために九条の会として果たす役割をめぐって活発な意見交換がされました。

衆院選でも野党共闘を

【長野県松本市・憲法 9 条を守り広げる松本地域連絡会】 12 月 3 日、松本地域連絡会が一橋大学名誉教授の渡辺治氏を講師に 12 周年記念講演会を開き、170 人余が参

九条の会第 6 回全国交流集会の 成果をこれからの運動に =**< 報告集 >**=

◇主な内容 呼びかけ人あいさつ(澤地久枝)/問題提起(小森陽一)/世話人あいさつ・メッセージ/分散会の報告(第 1~第 7 分散会)/資料 アンケートから見た九条の会の課題、他

◇B5 判 76 頁 1 冊 800 円(〒82)
5 部以上〒無料 10 部以上 1 割引

=**< DVD >**=

◇主な内容 呼びかけ人あいさつ/事務局長報告/世話人あいさつ・紹介
◇取り扱い 1 本 1500 円(〒160)

加しました。

反戦平和に思いを込めたトランペッターの松平晃さんの演奏で始まりました。

渡辺氏は、野党と市民の共闘で得た成果を強調し、安倍政権が野党共闘への攻撃を強めてくると指摘。改憲の機運をつくるために中国や北朝鮮の脅威を口実に、本格的な改憲論も仕掛けてくるとし、総攻撃の状況の下で憲法を守り生かすのは「共同を豊

かに強化するしかない」と語りました。

講演会を準備した女性は「これまでも私たちの9条の会はくらしと平和を掲げて、地域で共同を進めてきた。今こそ出番だと運動を広げたい」と意気込みを語りました。

自民・公明支持者も引き付ける共闘を

【岩手県・矢巾九条の会など】 岩手県の矢巾町で12月4日、紫波・都南・矢巾「九条の会」合同講演会が開かれ、県内各地から70人が参加しました。「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」の高田健共同代表が講演しました。

高田氏は、いま日本は戦争法発動など安倍政権の危険性ととも、緊迫する解散・総選挙での野党共闘と市民連合の役割の重要性について、語りました。

安倍政権を打倒するためには、新潟県知事選のように無党派層や自民・公明の支持層まで引き付けるような政策や共闘する勢力が必要と強調。市民連合的な運動を衆院小選挙区で構築する上で、九条の会は共同の軸となって奮闘しようと呼びかけました。

参加者からは、「新しい運動の核心をつかめた」「総選挙への意気込みが伝わった」などの感想が多数寄せられました。

九州・沖縄ブロック会議で交流

【九条の会九州・沖縄ブロック交流会】

くまもと九条の会が呼びかけた「九州・沖縄ブロック交流会」が3、4の両日、熊本県内で開かれました。

3日は、益城町での「くまもと九条の会12周年記念講演会」に各県から200人が参加しました。東京慈恵会医科大学の小沢隆

一教授が戦争法発動・九条改憲阻止と私たちの課題をテーマに講演し、琉球大学の高良鉄美教授が沖縄の米軍基地をめぐる現状について特別報告。猪飼隆明代表世話人が、戦争法を廃止させる運動を発展させようと呼びかけました。

4日は、熊本市で分科会を開き経験交流、これまでの活動や「今なすべきこと、求められていること」などを話し合いました。

全体会では、「宗教者の会や幅広い団体、個人との共同は大きな力になった」「共同して運動してきたママの会や若者の会などにも九条の会への参加を呼びかける」などの発言がありました。

地方自治体が平和のための役割を

【秋田県・県議会九条の会】 秋田県議会九条の会（民進党、共産党、社民党などが参加）は12月4日、秋田市で日本労働弁護団全国常任幹事の穂積匡史弁護士を講師に「安保法制と地方自治」の講演会を開き、地方議員と市民ら55人が参加しました。

穂積氏は、安保法制による南スーダンへの自衛隊PKO派遣で「切れ目のない対応がもたらす武力行使」、「自衛隊の武器使用緩和がもたらす武力への免疫」などの危険を指摘、「日本が軍事的行動をとろうとしたら極めて重要になる港湾の管理権を地方自治体に分散させたことは、平和国家の理念と密接な関係にある。軍事を否定する日本国憲法と地方自治の下では戦争はできない」と強調しました。

「憲法が身近なものになった」

【宮城県・みやぎ憲法9条の会】 憲法

9条を守り生かす宮城のつどいが4日、仙台市で開かれました。憲法学者の樋口陽一氏が講演し、第3会場までいっぱいにした1600人の市民が聞き入りました。

主催したみやぎ憲法9条の会代表の後藤東陽氏は、安倍政権の憲法破壊の政治を止めるのは「私たちの責任だ」とあいさつし、板垣乙未生事務局長が情勢報告をしました。

樋口氏は、日本国憲法の成立時には、「無言で受け入れた支配者勢力が、今になって『押し付け』などと言っている」と痛烈に批判しました。第2次大戦後、映画監督の伊丹万作氏が、「だまされるほど批判力を失い、思考力を失い、信念を失い、家畜的な盲従に自己の一切をゆだねるようになってしまっていた国民全体」にも戦争責任があるとの文章に触れ、「肝に銘じなければならぬ」と訴えました。

泉区の30代の会社員は、「なかなか身近な問題とは考えられなかったことがよくわかった」と話していました。

「9条を広げることが重要」

【岐阜県・岐阜市北西部4地域9条の会】

岐阜市で3日、俳優の鈴木瑞穂さん(89)を迎えて「平和のつどい」が行われ、90人が参加しました。主催は、岐阜市北西部の4地域の9条の会。

鈴木さんは「軍国少年と平和憲法9条との出逢(あ)い」と題して講演。満州(中国東北部)での軍国少年時代を振り返り、憲法9条に出会えたとき、「特攻隊で海に散った仲間が憲法を読んでおれば死ぬことはなかった」と、涙が止まらなかったことを語りました。現行憲法は人間を豊かにし、

平和な世の中に変えていくことができると述べ、「9条を守るのは当然だが、9条を広げていくことが重要だ」と語りました。

島中学校区9条の会代表の田中良さんは「自民党改憲案は立憲主義を否定し、基本的人権を大きく制限するもの。10年にも及ぶ『9条の会』の活動を力に安倍暴走政権を倒そう」とあいさつしました。

平和を願いともしびウオーク

【愛知県・名古屋市内7地域9条の会】

名古屋市内の7つの9条の会は、ペットボトルにLEDを入れた「ともしび」を持って、「平和のともしびウオーク」を開催し、350人以上が参加しました。今年で11回目。

参加者は4コースに分かれ、今西公園(千種区)を目指し、戦争の反省と「戦争する国づくり」阻止、平和への思いを胸に行進。「憲法9条、世界の宝」「戦争法は今すぐ廃止」とコールしました。

合流地点で聞かれた全体集会で実行委員長の水田節さん(71)は、「私は終戦一カ月前に産まれた。戦争へ突き進んだ日を忘れて、若い世代へと引き継ぐために、これからも続けていきたい」と話しました。参加者は、「憲法9条をいかし、国民主権、立憲・民主主義をじゅうりんする安倍政権を大きな世論で包囲し退陣させよう」とするアピールを採択しました。

最長距離の瑞穂区から1時間半行進した山下寛丈さんは「戦争に参加することばかり考えている安倍首相には、一日も早くやめてもらわないかん」と語りました。

青森から「自衛隊撤退」の声を

【青森県・青森九条の会】 毎月3日、青森県九条の会を中心として行っている「アベ政治を許さない」行動が、青森市駅前公園で行われました。

両手に9条うちわを持ち「戦争マイネ(だめ) 平和が一番」のプラスターを首に下げアピールする男性など13人が参加。「自衛隊員のいのちを守れ」のコールや、リレートークで市民へアピールしました。

マイクを握った男性は、「憲法違反の戦争法を成立させ、殺し、殺される任務を自衛隊員に負わせる安倍政権は許せない。青森から自衛隊の南スーダンからの撤退の声を広げよう」と市民へ呼びかけました。

「アベ政治を許さない」ポスターを掲げた工藤哲子さんは、「年金カット法案やカジノ法案など次々と悪法を強行する安倍政権のやり方に怒りとあきれが混在する毎日だけど、安倍政治は嫌だと意思表示していくことが大事だと思います」と語りました。

連続講座「歴史の中の憲法」

【長崎県・憲法九条の会・諫早】 憲法九条の会・諫早は3日、井田洋子・長崎大学教授を講師に、「歴史の中の憲法」と題した学習会を諫早市で開きました。「井田洋子の憲法講座」3回シリーズの第1回です。

井田氏は、近代以前から現代までの世界の国々の憲法の歴史について述べながら「近代以降憲法は人権を保障し、国家権力を制限することを最大の特徴としている」と強調しました。

質疑応答で「学校教育の中で憲法の授業がどの程度行われているのか」との質問に井田氏は「本格的な憲法教育は大学に入っ

てからであり、それでは遅すぎる。中・高校で憲法の基本的なことにふれる授業をしてほしい」と答えました。

同講座に参加した月川京子さん(65)は、「世界中の憲法を知ることによって、日本国憲法の良さを再認識した」と話しました。

「権力者を疑って」憲法守らせよう

【大阪府吹田市・2地域九条の会】 11月26日、吹田市吹田南地域と吹田第三中学校校区地域の各九条の会が結成されて今年で10年、これを節目に、さらに平和と、憲法9条を訴えていこうと地域のキリスト教団吹田教会をお借りして「憲法の集い」を開きました。これには会場いっぱいの50数名が参加しました。

「戦争法を廃止し平和な未来を私たちの手で」というテーマで講演した高作正博さん(関西大学教授)は、いまどんな時代を生きているか、安部内閣は大変危険な憲法観をもっていて、国民監視の法律をつくりながら、憲法そのものを権力者が自由に使えるように改悪しようとしている。私たちは権力をつねに疑い、そして権力をしぼる、今の憲法を放棄してはならない。と強調しました。

閉会では「私たちは九条改悪を許さないと10年間訴えてきました。この力は全国の九条の会と一体となったたたかいであったと確信しています。がんばりましょう」と呼びかけました。

会場からは沖縄の島唄を三線で唄い連帯、また「吹田の空襲を語り継ぐ会」は米軍が撮影した吹田の航空写真を見せながら、終戦直後の実態を語りました。